

**日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
GEWEX 小委員会 第 24 期第 2 回会合 議事録**

日時：令和 2 年 9 月 18 日（金） 10:00-12:00

会場：遠隔会議（Zoom）

（主催会場：東大大気海洋研究所気候システム研究系高薮研究室（柏キヤンパス））

出席委員：高薮 縁委員長，松本 淳副委員長，鼎 信次郎副委員長，

高橋 洋幹事，梶川義幸幹事（書記），尾瀬智昭，沖 大幹，沖 理子，荻野慎也，

大楽浩司，佐藤友徳，田中賢治，寺尾 徹，仲江川敏之 樋口篤志，森 修一，

重 尚一，増永浩彦，芳村 圭（出席委員数 19 名，定足数以上で成立）

オブザーバー：金 炯俊，米山邦夫，高谷祐平（3 名）

欠席委員：山田朋人，

議題：（配布資料 9）

0. 開会のあいさつ，自己紹介＋名簿の確認

1. GEWEX パネル活動の紹介

(1) GDAP：増永委員

(2) GLASS：金准教授

(3) CLIVAR/GEWEX Monsoon Panel 高薮委員

2. WMO アクティビティの紹介

(1) WMO SSC

(2) WWRP SSC：米山博士

(3) S2S SSC：高谷博士

(4) WMO/WGTMR：高薮委員

3. GEWEX 関連研究活動の紹介

(1) AsiaPEX：寺尾委員，鼎委員

(2) 日本の豪雨研究 2018 年豪雨，2020 年豪雨

(3) 防災研究：芳村委員

4. 話題：提言「持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測のあり方」

（2020.7.14 公表）について：高薮委員

5. 議論：今後の活動連携について

6. 議事次第について

配布資料：

資料 0：0. 【委員名簿】FE・WCRP 合同分科会 GEWEX 小委員会_9.17

資料 1: GDAP 報告-2020Sep-masunaga

資料 2: GLASS.GEWEX.JP.rev01@02020915.HJKIM

資料 3: CLIVARGEWEX-Monsoon Panel

資料 4: Report_WWRP_SSC_20200918

資料 5: GEWEX 小委員会_第 24 期_第 2 回_S2S_20200918

資料 6: AsiaPEX(GEWEX_GHP 関連) 報告ー寺尾

資料 7: 【提言】「持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測のあり方」

資料 8: 200918GEWEX_Yoshimura2

資料 9: GEWEX 小委員会第 2 回会合アジェンダ

資料 10: 最近の日本の豪雨解析研究活動についての報告

議事録:

0. 開会のあいさつ, 自己紹介(名簿順)

第2回になる本会議は, 2019年度の今年3月末に秋葉原での開催を計画していたが, ちょうど新型コロナウイルス感染症の拡大期にあたり会合を自粛すべきとの判断で延期になったものの仕切り直しである。24期のぎりぎりになってしまったが, GEWEX 関連の日本の活動についての情報交換をし, 研究活動を有機的に結合して応援する場として開催したい。

1. GEWEX パネル活動の紹介

(1) GDAP : 増永委員 : 資料1に沿って説明。

(2) GLASS : 金准教授 : 資料2に沿って説明

- ・ **高藪:** 11月のGLASS meetingの案内を委員会のMLに転送依頼。

<http://eo4water2020.esa.int/#submissions>

- ・ **高藪:** WCRP Lighthouse activities には誰か推薦/参画予定? **金:** 上の方から声がかかる。

(3) CLIVAR/GEWEX Monsoon Panel 高藪委員 : 資料3に沿って説明

- ・ **高藪:** GEWEXの4つのパネル(GLASS, GASS, GHP, GDAP) に日本のコミュニティからのメンバがなるべく参加できていると良い。現状GHP, GASSのパネルメンバとして日本からの委員は入っていないが, GHPの会議には寺尾氏がRHPリーダーとして参加しているため情報は得られている。

2. WMO アクティビティの紹介 - WMO SSC

(1) WWRP SSC : 米山博士 : 資料4に沿って説明

- ・ **高藪:** WGTMR 参加のため関係協力強化依頼。情報共有を積極的に。

(2) S2S SSC : 高谷博士 : 資料5に沿って説明

- ・ **吉村:** p8, Time Range は60日? **高谷:** 現業が出しているため日付にばらつき。データの利用は誰でも可能, Web 参照。
- ・ **寺尾:** モンスーンの研究はあまりない? **高谷:** S2S と観測が結びついたproject はこれまでにない。AsiaPEX とのシナジー効果など今後に期待。
- ・ **大楽:** Stochastic physics も hindcast にあるか? **高谷:** 現在, 計画段階。

(3) WMO/WGTMR : 高藪委員

3. GEWEX 関連研究活動の紹介

(1) AsiaPEX : 寺尾委員 : 資料6に沿って説明

- ・ **高藪:** お金の裏付けも必要。WMO などでも宣伝して(金銭的という意味でなく国際的な応援という意味での) サポートを得る事も可能性拡大によいかもしれない。 **寺尾:** community の中で共有すべきことが多々あるので, 多様化・複雑化しがちな部分をまとめながら宣伝も行う予定。IWM-7 の Panel で存

在感を高めつつ広める。高藪：WGTMР に observer 参加はどうか？

- ・ 沖（大）：まずは良い研究をするのが重要。国際研究には研究資金が不可欠と言う考え方もあるが、workshop などを通じて問題意識を高めお金がなくてもできる研究活動から始めてはどうか？寺尾：S2S データを見るところから、Monsoon onset など確認したい。
- ・ 沖（大）：Monsoon の予測可能性はこれまでの10年20年の間に何がどれだけ発展したのか Review paper が書けるぐらいにまとめておけると良いのではないか。

(2) 日本の豪雨研究 2018 年豪雨, 2020 年豪雨：高藪委員：資料 10 に沿って説明

(3) 防災研究：芳村委員：資料 8 に沿って説明

- ・ 増永：事前確率の情報使用の有無による差は？芳村：精度としては少しよくなる程度。良くなる傾向であるのが重要。計算時間の減少に効果。増永：川の周囲における洪水有無が情報として重要ということか？芳村：その通り。
- ・ 高谷：HydroSOS はどれくらい進んでいるのか？WMO の枠組みにおける季節内予測の提供が始まる予定。シームレスな予測利用の観点からとても有用。WMO 内の水文と予測の活動をうまくコーディネートしていければ。芳村：S2S はとても関連している。SHMI では ECMWF の SEAS5 を使用。

4. 話題：提言「持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測のあり方」(2020.7.14 公表) について：高藪委員：資料 7 に沿って説明

5. 議論：今後の活動連携について

- (1) 松本：次期連携会員が未定だが、Science をしっかりやりつつ、次期も小委員会を継続するのはどうか？高藪：次期連携会員の方にリードして頂き引き継げればよいと思う。
- (2) 沖（大）：日本学術会議の会合では組織論が多いのだけど、GEWEX の枠組みの科学的価値に沿った議論もすべき。会合がもう少し多いと効果的。予算・時間の制約もあるが、回数を増やしてコミュニティを育てることに意味があると思う。高藪：その通りで、科学的成果の交換もしたい。今期はコロナの影響もあり回数が少なかったため、まずは様々な国際活動間の情報交換が有用と考えた。次期以降は回数も増やしていくことで、科学的成果の議論の場も増やしていけたら良い。
- (3) 高藪：連携会員が決まらないと動けないが親委員会の FE・GEWEX 分科会に連絡しておく必要あり。
- (4) 松本：WMO IWM-7 が重要。インド開催話は進んでいるのか？米山：やる方で準備はしているが、延期か online かが議論されている。IWM は開催後に毎回書籍を出版している点は価値が大きい。

6. 議事次第について

- (1) 高藪：委員の間で議事録を回覧の上、修正などは委員長権限で行うことを了承。